

「楽しいサッカー・考えるサッカー」
三里塚フットボールクラブ

市民の
ひろば

11

November



それぞれに目標を持って
レベルアップを図る



ほくたち三里塚フットボールクラブは、6年生13人、5年生23人、4年生9人、3年生16人、2年生16人、1年生4人、園児1人の計82人で、毎週土・日曜日に地元のサッカーコートで、毎週水曜日の夜には本城小学校の体育館で活動しています。

練習は、学年ごとに内容を分けて行っています。低学年は、ドリブルやパス回しなどの基本動作を中心に、高学年は、



堀越 勇佑 選手(6年生)
「キャプテンとして試合や大会での勝利に貢献し、チームの団結力を高めていきたいです」

ゲーム形式の練習を通してチームワークを強化できるよう、それぞれ技術の向上に励んでいます。

サッカーの技術以上にチームが大切にしているのは、練習を教えてくれるコーチたちや、練習をさまざまな形でサポートしてくれるお父さん・お母さんに対する感謝の気持ちです。ほくたちの活動がいろいろな人たちに支えられていることを忘れないでほしい、とコーチもおっしゃいます。

楽しいサッカーを心掛けているほくたちですが、試合などで実績を残すことも、チームの大きな目標です。大会や試合での勝利を通して皆がサッカーに自信を持ち、将来のプロサッカー選手を目指していきけるよう、これからも練習に取り組んでいきたいと思っています。

陽だまりの会

「編み物つて、どうい
イメージですか」

第2・第4木曜日の午前中に中郷公民館で、編み物を楽しんでいるサークル・陽だまりの会です。講師は、多田洋子さんです。

わたしたちくらいの年代だと、学生のころに習ったことがある方もいるのでは。あれからどのくらいたつのでしょうか。陽だまりの会の設立で、懐かしの編み物と再会。今ではすっかりのめり込んでいます。

編み物のよさは、何と言っても既製品には



思い通りの作品を編んでみませんか



「これなんか似合うんじゃない」



細かい作業には神経集中

ない手作り感。心を込めて作った世界に一つだけ、自分だけの作品を身に着けると、幸せな気分になれます。中には半年くらい掛けて、根気強く編むものも。プレゼントとして大切な人に送ることもしばしばです。

編み物と聞いて一番最初に浮かぶのは、やはりセーターやマフラーでしょうか。わたしたちは、ほかにもカーディガン、バッグ、ポーチ、帽子など、いろいろな作品を編んでいます。編み図を見ながら、ひたすら編む、編む、編む…。地道な作業ですが、少しずつ形になっていくのが楽しく、完成が待ち遠しくなってきました。

今わたしたちが着ている服―実は、自分たちで編んだものなんですよ。

「次は、この服なんてどうかしら」
雑誌を見て、早く次の作品を考えなくちゃ。

スクスクのびのび 349



河野 蒼人くん(4歳) 公津の杜
「ほく、弟がいるんだ。大きくなったらいっぱいあそぼうね」



小野田 萌ちゃん(4歳・右) 本城
芽生ちゃん(11カ月・左)
「仲良し姉妹。ずっと仲良しでいてね♪」



鈴木 巧人くん(11カ月) 大袋
「いたずら大好き巧人くん。すくすく元気に育ってね」



緒方 美羽ちゃん(11カ月) 橋賀台
「いつまでもかわいい笑顔で、友達たくさん作ってね」